

本部事務組織を改編へ

「管理」「教育研究」部門に分けスリム化

大学の改革のあり方について検討している経営戦略委員会（加藤「委員長」）は、本部事務組織改編に関する答申書（第12次中間答申）をまとめ、田中英壽理事長に提出。同答申書は11月6日の理事会で報告された。これを受けて今後、組織改編に伴う諸規程等を改正し、平成28年4月1日付で実施する。

6年ぶりの改革、来春実施

今回、経営及び教育に「け、本部事務組織を「管理事務部門」と「教育研究事務部門」に分ける。

- 管理事務部門の主な改編**
- ▽総務部 監査課業務を法務課へ移管し廃止
 - ▽財務部 130周年記念事業募金オフィスの業務を資金課へ移管
 - ▽管財部 用度課業務を管財課へ移管し廃止。工事監理課業務を施設課へ移管し廃止。施設課を「営繕課」に改称。情報推進課を編入し「IT管理課」と改称
 - ▽広報部 「企画広報部」に改称。広報企画課を「企画課」に改称。大学史編纂課業務を広報課へ移管し廃止―など
- 教育研究事務部門の主な改編**
- ▽学務部 国際交流室を「国際交流課」に改称
 - ▽学生支援部 「学生部」に改称。筆頭課を学生課とする
 - ▽研究推進部 学術情報課を編入し「学術情報管理課」に改称―など

合同図書館に主要な機能を移管する。総合図書館は、学部図書館を総称し統括するとともに、教育研究上必要なあらゆる情報を提供する機関となる。また、学術情報管理と研究推進の連携を図るため、研究推進部を事務所管としている。

国内外から700人 全国校友大会開催

平成27年度の日本大学全国校友大会が11月6日、東京・水道橋の東京ドームホテルで開催された。

れ、国内及び海外から校友約700人が参加し、結束を誓った。

大会実行委員長の内田俊太郎校友会副会長が開会の辞を述べた後、校友会会長の田中英壽理事長があいさつし写真。「来年4月には二つの学部が開校され、29年には世田谷区に認定こども園を開校するが、創立130周年記念事業はさらに続ける」と述べたうえで医学部附属板橋病院の建て替えに強い意欲を示した。

大塚吉兵衛学長も来賓あいさつで板橋病院の建て替えについて言及。大塚学長はまた、大学の厳しい状況にふれ、これを乗り切るため「皆さまにも協力をお願いしたい」と支援を呼びかけた。

11支部の支部長がそのいの法被姿で壇上に上がり、竹内康雄高知県支部長の音頭で乾杯し、和やかに歓談した。

15人の博士が誕生 第2回学位授与式

平成27年度第2回の学位授与式が11月30日、日本大学会館大講堂で行われ、論文審査を通った15人（うち女性4人）に博士の学位記が授与された。



たなキャンパスが完成する。古屋尚事務理事、前野正夫歯学部部長ら本学役教職員、建設関係者が参列し11月13日に、工事の安全を祈願する地鎮祭が執り行われたし写真。

新校舎工事は2期に分かれる。第1期は旧医学部付属日本大学駿河台病院の跡地に新歯科病院を、30年開院に向けて建設する。第2期では、隣接する歯学部2号館（現歯科病院）を解体し、跡地に新校舎を建てる。二つの建物が一つの棟というかたちで、出来上がる（前野歯学部部長）。

三島歯科医療センター 国際関係・北口校舎に完成

歯学部新校舎の新築工事が本格化する。平成28年に創設100周年を迎える歯学部が、記念事業の一環として整備。33年に「教育」「研究」「臨床」の3機能を融合させた新校舎・病院を一体整備。歯学部新校舎の新築工事が本格化する。平成28年に創設100周年を迎える歯学部が、記念事業の一環として整備。33年に「教育」「研究」「臨床」の3機能を融合させた新校舎・病院を一体整備。

三島歯科医療センター 国際関係・北口校舎に完成

歯学部新校舎の新築工事が本格化する。平成28年に創設100周年を迎える歯学部が、記念事業の一環として整備。33年に「教育」「研究」「臨床」の3機能を融合させた新校舎・病院を一体整備。



同センターは歯学部付属歯科病院の分院で、大学病院ならではの専門的な医療拠点を設けることから、口腔外科的手術が可能など歯科診療施設がない静岡県東部地域の空白を埋める一方、歯学部の学生及び臨床研修歯科医師などの医療機関としての役割も担う考えだ。

三島歯科医療センター 国際関係・北口校舎に完成

歯学部新校舎の新築工事が本格化する。平成28年に創設100周年を迎える歯学部が、記念事業の一環として整備。33年に「教育」「研究」「臨床」の3機能を融合させた新校舎・病院を一体整備。

プンし、治療ユニット2台と放射線装置などの関連機器、受付などを設けて、歯科医師と歯科衛生士それぞれ2人が常駐。地域の歯科医師の紹介に基づいた患者を対象に、難拔牙など入院を必要としない程度の小手術を施す他、国際関係学部・短大（三島校舎）・日大三島高校向けの福利厚生の一環として、教職員や学生等の歯科診療にもあた

作放棄地再生プロジェクトについて、日本農業経営大学校の堀口健治校長からは就農志望者を対象とした実践教育の紹介があった。北里大学地域連携の古矢鉄矢事務局長からは、学部間の調整を元に行う意義などについて講演があった。

28日には学部の教員と学生による地域連携事例として、地元藤沢市の休耕田による古代米栽培、秋田県「あきたこまち」の超多収技術の要因分析、福島県石川町のご当地キャラクターによる地域ギャラクシーによる地域おこしの発表があった。最後のパネルディスカッションでは学部横断科目「フィールド実習」の実施地域との域学連携の報告があり、継続的な連携のための常設機関の必要性などが議論された。

域学連携をテーマに 全国農村サミット開催

生物資源科学部は11月27、28の両日、本館大講堂で第17回全国農村サミットを開催した。テーマは「域学連携と教育―地域で活躍する人材を育成する教育とは」。

産・学・官連携で 三つのフォーラム

工学部は11月25日、第16回産・学・官連携フォーラムを開催し、会場を図書館3階に移して、本学管弦楽団によるミニコンサートも実施。参加者にはホットドリンクや子供たちにはクリスマスマフラッピングしたお菓子も配られた。

産・学・官連携で 三つのフォーラム

このほか、同日には法学部が点灯式を開催。また経済、芸術、国際関係、理工、生産工、医、生物資源科各学部でもキャンパスを彩っている。

日本大学 広報

編集・発行 日本大学広報部広報課 購読料 年間1,000円（送料共） 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話 03(5275)8132直通 http://www.nihon-u.ac.jp

新副学長に2教授を選任



落合副学長 小関副学長

大学は日本大学教育職組織規程第3条に基づき

副学長について、12月4日の学部長会議及び理事会で、小関勇商学部長、落合実生理工学部長の2教授を新たに選任した。

加藤文理学部部長を再任



加藤学部長

大学は12月4日の理事会で、加藤直人教授の文理学部部長再任を承認した。任期は平成28年1月

所、産官学連携知財センター、総合学術情報を担当する。

また大学は寄附行為第17条第2項に基づき学長の代理・代行者について

21日から3年間で、今期が3期目になる。1月20日で加藤学部長が任期満了となるのに伴い、同学部では学部長候補者選挙規程に基づき予備候補者選挙を11月9日に行った。有効投票の3分の2以上の得票を得た加藤教授を予備候補者として決定し、11月12日の教授会で審議の結果、最終候補者とした。

Xマスイルミが彩る



商学部で行われたイルミネーション点灯式

12月10日、商学部で初めてのクリスマスイルミネーション点灯式が開催され、授業を終えた学生、教職員、近隣の山野小学校児童や保護者など大勢が参加した。噴水広場のヒマラヤ杉にLEDライトを設置。午後5時から式が始まり、乾杯で選ばれたミスター、ミスの学生代表が山野小学校児童代表とともにイルミネーションを点灯すると、広場にツリーが浮かんだ。